

館長コラム  
「水墨画の発色」  
滝沢 具幸

飯田地方は古くから水墨画が盛んで、多くの文人墨客がおとずれ、愛好者も多い。また全国の中でも表具店の多い地域でもあり、現在も床の間に掛け軸を掛ける習慣も自然に行われているようである。

私ごとであるが毎年夏に飯田で水墨画の指導を行う機会があり、水墨画に興味を持つ人達と墨の感触を楽しんでいる。

日本画や油彩画は顔料がいかにか画面に定着し、発色しているかという点が作品にとって大切である。画面に定着させるテクニックは作者の思想やテーマとも重要な係わりをもっているが、同じ絵画でも水墨画においては定着という言葉はあまりなじまない気がする。むしろ水墨画においては浸透という言葉が合うようである。画仙紙や唐紙などに墨がしみ込んで乾くとき墨は発色する。このとき墨と紙が一体となって画面が構成され、墨の濃淡が表われ墨色を出すのである。

墨絵の技法には付け立て法、たらし込み、点、線描、暈し、渴筆などさまざまなテクニックがある。「付け立て法」は長流や如水筆の先端と腹を使い分けて面による没骨法で写生する方法であり、

描く前に筆の水量をよく調整しなければならぬ。水が多すぎれば形がぼやけ、少なすぎれば筆運びは伸びやかにはならない。「たらし込み法」は、宗達や光琳などの琳派の画家たちが用いた技法であり、たらし込み技法の作品では宗達の描いた「牛図」の右に出るものは無いと思う。太めの淡墨で線描し、牛の体はたっぷり水分を含んだ墨を溜め込んで見事な味わいを出している。滞留した墨が乾いた時の効果は実に味わい深い発色をするものである。この技法では墨でも定着という言葉が似合う気がする。また「南画」や「文人画」などは『芥子園画伝』などの中国の技法書による皴法や樹法などの基礎技法や理論を習得した後に自己の表現へと進めてゆき、筆先の潤渴の具合を会得することが大切である。

水墨画は常に画仙紙や、唐紙の紙質と微妙に係わってくる技法といえることができる。

紙上に墨の線が伸びやかに走り、浸透してゆく感触を筆先に感じることは誠に楽しいものである。



「楽此幽居」富岡鉄斎 明治38年(1905) 岩崎新太郎コレクション

CONTENTS

黄金の世紀—きらめく古墳文化—  
(7/9～8/21)

美術ノート  
岩崎新太郎コレクションと高田由紀さん

第6回美博まつり  
(7/30・7/31)



「円形飾金具」(国宝)  
奈良県藤ノ木古墳/榎原考古学研究所



「心葉形杏葉」(重文)  
長崎県笹塚古墳/  
宍岐市教育委員会

# 1

7/9<sup>土</sup> ~ 8/21<sup>日</sup>

## 三遠南信文化交流展 黄金の世紀—きらめく古墳文化—

古墳時代とは、墓である「古墳」によって社会性が表現された時代です。いまでこそ草木が茂り、野辺にたたずむ存在である古墳も、かつては多くの人々が力をあわせて造り上げた土木構造物でした。さらに被葬者には、さまざまな副葬品が添えられました。大変な思いをしてまで人々が墓造りにいそしんだ背景には、葬られた人の生前の権威や役割を多くの人に視覚的にうったえ、さらに後世へと伝える役割が古墳自体にこめられていたからです。三遠南信地域は、古来より畿内と東国とを結ぶ地域として理解されてきました。しかし近年の古墳時代研究の進展により、独自の文化と豊かな歴史像に彩られた、多様な地域色が明らかになりつつあります。

本展覧会は、三遠南信地域を主体に、古墳文化を多角的に紹介します。第一部では、三遠南信地域の古墳の出土品をもとに、古墳時代とその文化を通観します。第二部では各地域を象徴する古墳に注目し、その地域と時代相を探ります。第三部では、国内の黄金文化の精華とも言える優れた製品を展示し、三遠南信地域、さらに列島に花開いた黄金文化を紹介します。

そして第四部ではやや趣向を変えて、「交流」をテーマに、古墳時代のダイナミックな人々の関わりや文化動態を三遠南信地域から韓半島、さらに中国まで範囲を広げて読み解きます。こうした多角的な視点により、三遠南信地域、さらに日本列島の古墳文化や社会構成、さらに対外交渉などが理解できるでしょう。あわせて、古墳時代の優れた金工品を展示することで、最高峰の金工美術をたどる機会としました。

展示品は、奈良県「藤ノ木古墳」出土品(国宝)・長崎県「沖ノ島祭祀遺跡」出土品(国宝)を含む、国宝2件31点、重文10件40点、県指定15件123点などで、普段では目にすることができない資料ばかりです。

展示期間：7月9日(土)～8月21日(日)  
開館時間：午前9時30分～午後5時  
7月15日(金)は夜間開館(午後9時まで、入館は午後8時30分)します  
休館：月曜日・祝日の翌日(月曜日が国民の休日の場合は火曜日)  
観覧料：大人500円(400円)・高校生300円(250円)・小中学生無料  
※()は20人以上の団体料金



「竜文飾金具」(国宝) 奈良県藤ノ木古墳/榎原考古学研究所



「銀製鍍金空玉」(国宝)  
奈良県藤ノ木古墳/榎原考古学研究所

# 2

## 美術ノート 岩崎新太郎コレクションと 高田由紀さん

平成9年に岩崎新太郎コレクションご寄贈を賜りました高田由紀さんが、平成23年3月8日にお亡くなりになりました。

高田さんは、岩崎新太郎氏の婿養子に入られた岩崎清美氏の一人娘として誕生され、神奈川大学で教鞭を執られた工学博士の高田三郎氏とのご結婚により高田姓となりました。ご寄贈いただきました573点書画類は、お母様の絹恵氏より受け継がれたもので、そのほとんどは祖父にあたる新太郎氏が収集されたものでした。岩崎家は飯田扇町に店を構えた商家でした。飯田の大火では近隣から出火し所蔵の書画を含む家財を失いましたが、唯一、岩崎新太郎コレクションは救出されて難を逃れました。日頃から新太郎氏が大切にされていたことが記憶にあり、真っ先に高田さんとお母様によって運び出されたそうです。

岩崎新太郎氏は、「新画の岩崎」とも呼ばれ、過去の作品ではなく同時代に制作している作家達の作品を集めました。明治～大正時代に東京や京都で活躍した日本画家や南画家、書家の作品が画帖サイズに整えられ網羅されています。菱田春草をはじめ、春草を指導した橋本雅邦、美術院を引き継いだ前田青邨、近代の京都画壇を担った竹内栖鳳や上村松園、飯田に訪れた富岡鉄斎、日下部鳴鶴など、時代をリードした作家も少なくありません。

高田さんのご寄贈によって、100年前の飯田の文化を今に甦らせる貴重なコレクションが当地に長く伝えられることになりました。美術博物館では、所蔵作品の中心の一角に位置づけ、毎年、平常展示の中で岩崎新太郎コレクションを展示しています。高田由紀さんのご冥福をお祈りし、ご生前のご厚志にあらためて感謝申し上げます。



「旅僧観桜」橋本雅邦  
明治29年(1896)



「双雀」竹内栖鳳  
明治31年(1898)

# 3

## 第6回美博まつり

美術博物館恒例の夏のイベントとなった美博まつりは、今年で第6回目をむかえます。今年は7月30日(土)・31日(日)の2日間の日程で開催します。美博まつりの呼び物は、全館のいたる所で繰り広げられる数々のワークショップです。学芸員や専門研究員がそれぞれの特技を生かしてユニークなワークショップを開催します。また、中央図書館・川本喜八郎人形美術館・歴史研究所からもワークショップの出店があります。今年のメニューは18種類、オリジナルグッズを作ったり、特別なガイドツアーに参加したり、不思議な昔話が聞けたり、楽しみ方は幾通りもあります。両日とも朝9:00、昼12:30にワークショップの整理券配布を行います。

### ----- ワorkshop一覧 -----

- |                     |                                     |
|---------------------|-------------------------------------|
| ① まが玉をつくろう          | ⑪ ブラネタリウム 宇宙と地域を知ろう                 |
| ② 化石レプリカをつくろう       | ⑫ 葉たくアートで手づくりうちわ                    |
| ③ 石の図鑑づくり           | ⑬ 楽しい形の絵本をつくろう<br>(中央図書館)           |
| ④ アロマで虫よけ           | ⑭ 石に描いて変身                           |
| ⑤ おえかき革命～しゃぼん玉で描こう! | ⑮ 昔ばなしとふるさと紙芝居を楽しもう<br>(川本喜八郎人形美術館) |
| ⑥ 絵の具をつくろう          | ⑯ パラパラマンガをつくろう!<br>(川本喜八郎人形美術館)     |
| ⑦ 飯田水引細工にちょうせん!     | ⑰ 昼間の金星と<br>太陽の黒点をみつけよう             |
| ⑧ 飯田城たんけん           | ⑱ スタンプラリー 美博探検の旅<br>(歴史研究所)         |
| ⑨ バックヤードツアー         |                                     |
| ⑩ 百人一首とふれあおう        |                                     |

**パスポート会員向け特典**  
パスポート会員の皆様は、ワークショップの事前予約ができます。また、パスポート会員限定のバックヤードツアーもございます。7月15日～7月28日が受付期間です。ご希望の方は美術博物館(22-8118)までお問い合わせ下さい。



前回の美博まつりの様子



前回の美博まつりの様子